

2026年中国地域U-18 審判員強化研修会報告

(一社) 中国サッカー協会審判委員会
ユース審判員部会長 辻村俊司

日 程 2026年2月15日(日) 13:00~16:30
場 所 福山大学グラウンド 福山市
審判員 鎌田純輝(岡山県・おかやま山陽高3年)、生田賢太郎(鳥取県・米子北斗高3年)
井上真尋(中国学連・広島大学1年)
指導者 辻村俊司(ユース審判員部会長)、福田秀孝(ユース審判員部会島根県担当)
内 容 地域トレーニングキャンプU-17 中国2025での試合における審判実技研修会

2月15日(日)に本年度2回目の中国地域U-18 審判員強化研修会を福山大学グラウンドで実施しました。今年度も「技術と審判の協調」の場、新しいシーズンに向けたユース審判員の強化の一環として中国地域U-17と福山大学のトレーニングマッチ(30分×3本)に2名の審判員で主審と副審の実技研修をおこないました。

参加した審判員は二人とも高校3年生で、3年間の集大成として次の目標に向かったレフリングをおこなうことを求めました。また、中国学連審判員にゲームの中盤5分程度シャドーとして入ってもらい、動き出すタイミングやポジショニングで気を付けることなどピッチ内でアドバイスをしていただき、中国学連との連携も図っていきました。

試合はお互いの出方を慎重に伺う中、攻守テンポの速い試合展開となりました。ポゼッションからディフェンスラインの背後を狙ったり、パス交換からターゲットにボールを収め、ゴールに近づこうとしましたが、お互い決定機会を決めることができず0-0の引き分けで試合を終えました。試合後、審判員と学連審判員、審判指導者が試合の振り返りをおこないました。大きな判定の間違ひもなく試合を進められたこと、争点から引き離されることないようにポジション移動を心掛けて必要時にはスプリントを駆使していたこと、細かなステップワークや体の向きを工夫し、プレー全体像を視野の確保に努めていた点は評価できました。課題としてDFラインやPA付近でのビルドアップ時、相手FWがボールや人にプレッシャーをかけている場面では、何か起こるのではないかとといった危機管理意識をもったポジションを取る必要がありました。ファウルとして笛を吹かなくてももう少しプレーさせても良かった場面やプレーに影響のある場面ではきちんとファウルとして止めた方が良かった場面も見受けられました。振り返り際には、自分の考えをはっきりと述べるなど自己分析がきちんとできており3年間の成長を確認することができました。研修会の最後に会場校の岩成智和福山大学監督、今回の責任者である塚越中国高体連技術委員長、大畑開 JFAU-15 代表コーチよりレフリングのねぎらいと世界基準の判定について技術も審判もさらにすり合わせていくタフな選手を育成する必要があるとコメントをいただきました。高校卒業後は、県外で活動する審判員もおり、新たなステージで活躍することを期待したいと思います。

最後に今回の研修会に審判員を派遣していただいた審判委員会、大学生審判員を派遣していただいた中国学連審判部、研修会の場を提供していただいた福山大学および地域トレーニングキャンプU-17 中国運営担当者の塚越先生、各県チームスタッフの方々のご理解とご協力にお礼申し上げます。

2026 中国地域 U-18 審判員強化研修会に参加して

岡山県 (鎌田純輝)

今回の研修では、福山大学対中国 U-17 でどちらも強度が高くプレースピードが速かった為、より良い位置でレフェリング出来るように走りきることを自分のテーマに行いました。

ただ我武者羅に走るのではなく、予測を行いながら、選手のやりたいことを考えながらレフェ

リングを行っていました。その中で、大学生の井上さんにシャドーに入ってもらい、ビルドアップ時のポジショニングの修正や自分の体の向き、視野のことなどエラーが起きにくい時に適当になっていた自分がいたので今回の井上さんにシャドーに入ってもらい気がつくことが出来ました。今回の研修会で、自分の改善点やレベルの高い試合が出来たことをこれからの審判活動に活かして日々成長していきたいと思えます。

鳥取県（ 生田賢太郎 ）

2級審判員としての意識が大切だと感じた。レフェリングする際のポジショニングも3級とは違い、幅をとりながら視野をより広く持つ必要があることを学んだ。自分自身では、視野を広くもつ意識をしながらレフェリングをしているつもりだったが、ポジショニングの修正をすることでより広い視野でジャッジできるようになることがわかったので、実践していきたい。

自分のレフリングについては、比較的強度の高い試合なので自分のスプリント能力がどの程度通用するのか不安だったがしっかりと走ることができた。一方で、判定に関しては難しい事象がなかったので大きなミスはなかったと感じているが、選手同士の小競り合いや、引っ張り合いをどのように処理していくのが今後の課題だと感じた。細かい点では、笛の強弱についてももう少し明確になるような心がけが必要だと思った。自分で意識しているつもりだけれどもまだまだ不足しているところが沢山あることに気づくことができた研修だった。

今後の目標と活動については、まず2級になったということに対する責任感や意識を強くもつことが必要だと思うので意識改革からしていく必要がある。そして、ユースを卒業することになるので大人の社会の中で周囲の先輩方とコミュニケーションをしっかりととりながら真摯な姿勢で周囲からのアドバイスを受け入れ、自分自身のレフェリングと人間性を高めていきたいと思う。

また、ここまで育てて下さった中国サッカー協会、鳥取県サッカー協会の皆様に感謝を忘れず中国地域や鳥取県に貢献できるような審判員になりたい。

この場をお借りして、ユース活動を支えてくださった多くの方々に感謝申し上げます。

